

集中治療部

高度で専門的な集学的治療で患者さんの早期回復を目指す

集中治療部 部長 高崎康史

集中治療部はICUとICU2に分かれており、それぞれ8床と14床の計22床となっています。ICUは侵襲が大きい手術後の患者さんをメインに、麻酔科蘇生科出身の専従スタッフ3人が各診療科の主治医と協力して診療に当たっています。ICU2は現在、コロナの重症患者さん専用の病棟として、救急部の先生方が中心となって診療しています。ICUには年間で約800人の患者さんが入室されます。7～8割は術後の患者さんで、残りが病棟で入院している重症の患者さんや、救急に運ばれてきたコロナ以外の重症の患者さんです。全体の半数は人工呼吸器をつけており、そのうち6割が心臓手術後の患者さんですが、多くの方は1～2日で人工呼吸器を離脱し、早期にリハビリを開始しています。また県内で唯一、左心の補助循環による心不全治療を行っており、その後植込み型補助人工心臓の術後管理に対応することもできます。年間で10例ほどある生体肝移植、食道がんの縦隔鏡を用いた低侵襲手術の患者さんの術後の全身管理も対応しています。集中治療専門医の認定施設でもあるため、専門医の育成にも力を入れ、集中治療の専門的知識とスキルを持った人員の拡充によってより多くの患者さんの受け入れを目指しています。



PROFILE

たかさき やすし◎1987年愛媛大学医学部卒業。市立宇和島病院救急センター長を経て2019年より現職。専門は麻酔一般、集中治療一般。趣味はスポーツ観戦（特にPGAツアーなど）。